国語科より

【大学受験の現代文入門（中３）】

１．ご用意いただくものと配付するもの

①予め用意して **Gnoble** の授業に持参すべきもの

□**解答用紙を整理するためのクリアファイル・クリアブック・バインダー・ノートなど**
□**筆記具**
□**辞書もしくは電子辞書**：授業内でも語の意味調べで使用します。

②**Gnoble** の授業内で配付されるもの

□**通常授業テキスト**：F1-1 で配付
□**各種補助プリント**：本文内容に関わる補充教材・模範解答など

２．授業の進み方と日々の取り組み

①授業の進み方（全6回のカリキュラム）

第一回：高校入試レベルの記述で、まずは力試ししよう
　　国語読解・記述の基礎演習⓪
第二回：書いてある情報を正確に読み取り、記述しよう①評論・随筆
　　国語読解・記述の基礎演習①
第三回：書いてある情報を正確に読み取り、記述しよう②複数の評論・随筆の組み合わせ
　　国語読解・記述の基礎演習②
第四回：要約を書いてみよう
　　国語読解・記述の基礎演習③
第五回：大学受験ならではの小説問題の読み方を会得しよう
　　国語読解・記述の基礎演習④
第六回：東大入試に挑戦してみよう
　　国語読解・記述の基礎演習⑤

この6回の授業で、大学入学試験の現代文の読み方、解答の書き方の基礎を固めるとともに、初見の長文問題の理解の助けとなる、さまざまな物事に対する知識を身につけていきます。また、一人ひとりの解答を担当講師が個別に採点することで、自分の国語力に足りない箇所を発見することができます。

基礎から入試問題演習までを6回で学ぶ集中講座になりますので、「欠席せずに授業を受けること」(やむを得ず欠席する場合にも「映像授業」サイトで教材のダウンロード・演習・動画視聴を必ず行うこと)「毎回の授業の復習を丁寧に行うこと」「宿題を必ず行って授業に参加すること」が重要です。

②授業の受け方

□必ず宿題をやって授業に参加しましょう。

一度自分で解答を書いてみることで、模範解答と比較した際、訂正すべき箇所が明確になります。

□模範解答を写すことで満足せず、自分で解答を書き直しましょう。

模範解答をただ写しても、それは文字を書いているに過ぎません。自分の解答と比較し、足りない箇所を補い、不要な部分を削り、「自分の国語力」を磨きましょう。

③日々の取り組み

□復習

2回復習することを提案します。

1:授業を受けた当日、または翌日の復習

授業を受けた当日の寝る前、または次の日の、まだ記憶の新しいうちに「通常授業テキスト」の文章をもう一度読み返しましょう。そこで「あれ？　この言葉の意味がわからない」と思う箇所があれば、辞書で意味を調べましょう。

また、文章を読み返しながら、頭の中で再度問題を解きなおし、模範解答と見比べて疑問点や間違った点を整理しましょう。

2:丁寧な復習

まとまった時間が取れるときに、テキストを見返して、再度解答を書き直してみましょう。その際、なぜこの解答になるのかが漏れなく説明できるかどうか、頭の中で「脳内解説」「エア授業」を行えたらパーフェクトです。

□日常的な学習

現代文の学力を上げるためには、やはり日々の読書が大切です。まずは自分が興味を持てる分野の本でかまいません。1週間に1冊ぐらいは読書をするのがおすすめです。小説でも評論文でもエッセイでもかまいません。科学雑誌のニュートンやブルーバックス、ナオショナルジオグラフィックなどもいいのです。

文字で書かれたものを読む習慣を身に着けて、読書の楽しさを知ってください。

（参考資料）受験科目「国語」の特質と長期的展望の必要性

大学受験の一科目として「国語」を見たとき、注意しなくてはならない点は、大学により求められる力が大いに異なるということです。そもそも、国語が受験科目に存在するかどうかということ自体、大学によって差があります。

たとえば、国立理系志望の生徒の場合ですと、

- **東大**・・・・・・・・・理系でも二次試験まで必要
- **東工大**・・・・・・・二次試験、国語無し。共通テストでは受験するが、最終合否判定における共通テストの重要性が著しく低い
- **国立医学部**・・・二次試験に国語があるところは東大・京大など限られるが、共通テストで高得点が必要である

というように、志望校によって国語の必要状況に差があることが分かります。

同じように、現代文・古文・漢文という3つの区分に関しても、選択問題・記述問題という形式に関しても、どこまでの学習が必要であるかは大学によって異なっています。私立文系の大学では、学部・学科ごとに出題範囲・形式が違うこともしばしばです。受験技術的な話ばかりするのは我々も好きではありませんが、国語の受験勉強に関しては、志望校が固まり次第、受験科目として国語がどのように必要であるかを調べることが相当に重要です。配点等を調べると同時に、実際に解かなくて構わないので、早いうちに過去問を見てみることを推奨します。

こうした入試制度に鑑みた上で、グノーブル国語科では、高校生活3年間の国語学習に関して、以下のような学習スケジュールを提案しています。

（**中３・・・古文入門**［冬期講習］**・現代文入門**［Ｆターム］）

高１・・・古文［春期講習からの通年講座、１年間完結］

高２・・・現代文［春～１２月］（文系、東大・京大志望の理系）

古文（高１で未履修の者）［春期からの通年講座、１年間（もしくは春～１２月）完結］

※高１・高２の夏期講習と冬期講習に「漢文」開講（どこかで１回受講する）、それを踏まえた長文演習講座として新高３（高２）の1～2月に「Ｆターム漢文特別講座」開講

※新高３（高２）の１～２月に「古文特別講座」（高１・２で未履修の者向け速習講座）開講

高３・・・志望校別の対策［春期講習から直前講習で完結］

東大国語、難関国語、私大国語、小論文・医学部小論文

※難関国語は京大・一橋大・阪大・東北大・筑波大・お茶の水女子大など、２次試験に記述の国語を課される大学を受験する生徒向けの講座

※私大国語は早稲田大・上智大・明治大・立教大などの文系学部を受験する生徒向けの講座

※4月の入室テストで不合格の生徒は4～7月開講の基礎力強化講座「受験国語基礎」にご案内

※夏期講習と冬期講習に「共通テスト国語」開講

学校で、理科・社会の範囲履修があまり進んでいない高1のうちに、通年で「古文」を受講し、古文の学力を完成させるスケジュールが理想的だと考えています。そうすれば、高2の間に、現代文の実戦演習や理科や社会の勉強に着手する余裕ができ、現役合格の可能性が高まります。

いずれにせよ、高3になって慌てて古文の学習に手を着けるようでは、十分な学習時間を確保しにくく、成績を上げるのもなかなか難しい、という事実はお伝えしなくてはなりません。どのような方法で勉強するにせよ、入試に国語が関わる（関わりそうな）場合は、高2までに古文（漢文を使用する場合は、漢文も）の基礎学力を身に付けることを前提にお考えいただければと存じます。